高松市埋蔵文化財調査報告　第217集
高松市埋蔵文化財センター活用事業紀要第1集

史集 高松

第1号

2021年 3 月

高松市教育委員会

例　言

1　本書は、高松市埋蔵文化財センターが実施した公開活用事業の広報及び成果の公開を目的とした冊子である。特に講座等の成果については、文字化し成果を蓄積することで公開活用事業の成果をより広く活用することを目的として作成した。

2　本書には令和２年４月から令和３年１月にかけて実施した埋蔵文化財公開活用事業の成果及び広報を収録した。なお、本書の成稿及び印刷に要する期間の関係で、一部については次年度に発行予定の次巻に掲載する予定である。

3　本書の執筆分担は以下のとおり。
第１・３章：高松市創造都市推進局文化財課文化財専門員　高上拓
第２・４章：同課会計年度任用職員　織田比呂子
第５章第１節：同課文化財専門員　品川愛
第５章第２節：同課会計年度任用職員　有岡京香・同課文化財専門員　梶原慎司
なお、編集は高上が担当した。

目　次

第１章　講座・講演……1
第１節　市政出前ふれあいトーク……1
第２節　連載講座『探求！たかまつ遺産』……2

第２章　展示……3
第１節　埋蔵文化財センターの常設展示……3
第２節　埋蔵文化財センターの企画展示……3

第３章　パンフレット……4

第４章　体験学習……5
第１節　体験学習講座……5
第２節　体験キット販売・動画配信……6

第５章　活用事業の成果……7
第１節　伝鶴尾神社５号墳出土土器の再評価（品川）……7
第２節　地籍図からみた屋島における明治初期の凝灰岩の採石状況（有岡・梶原）……11

第１章　講座・講演（令和2年4月～令和3年3月）

第１節　市政出前ふれあいトーク

高松市では、広く市民からの依頼を受けて市政に関する講座等を実施しています。高松市埋蔵文化財センターでは、市内の遺跡や史跡整備事業の成果等を中心に、依頼を受け付けています。

対象：市内に在住、又は通勤・通学されている方で、市政やまちづくりに関心のある 20 人程度の参加が見込める団体やグループ。
申し込み方法：所定の申込書に希望するテーマ・日時などを記入して、実施希望日の２週間前までに提出
申し込み・問い合わせ先：高松市役所１階市民相談コーナー（tel：087-839-2111　fax：087-839-2464）

令和２年度の文化財関係ふれあいトークの事例

番号	名　　称	主 催 者	参加者数	年 月 日	主 な 内 容	担当
1	紫雲ふれあいウオーク2020	高松紫雲ライオンズクラブ	中止	4月5日	峰山公園よりウオーキング石清尾山古墳群の説明	高上 船築
2	二番丁地区の文化財	日赤奉仕団二番丁分団	中止	4月18日	二番丁地区周辺の文化財の紹介	山本
3	文化財保護協会総会講演	文化財保護協会	中止	4月23日	令和2年度の文化財行政の動向（事業計画など）	山元
4	NPO法人高松城の復元を進める市民の会理事会	NPO法人高松城の復元を進める市民の会	中止	4月25日	桜御門の復元内容と工程について	大嶋
5	NPO法人高松城の復元を進める市民の会総会	NPO法人高松城の復元を進める市民の会	中止	5月30日	旭橋北側石垣修理で分かったこと	大嶋
6	屋島　黒石の丁場について	屋島コミュニティセンター	21人	6月25日	屋島北嶺にある洞窟では黒石はどのように採掘されたか	梶原
7	令和2年度　埋蔵文化財保護行政担当者研修会	香川県庁北館3階303間集会室	30人	9月4日	遺構・遺物の調査研究「勝賀城跡の発掘調査」	梶原
8	石清尾山古墳群の歴史的価値と今後の展望	蓬莱歴史研究会 （丸亀市生涯学習課）	30人	9月15日	史跡石清尾山古墳群の説明	波多野
9	後期企画展・緑地帯屋外施設解説	太田郷土史誌研究会	10人	9月23日	後期企画展・緑地帯屋外施設解説	佐藤
10	太田南地区の遺跡等	太田郷土史誌研究会	8人	9月23日	亀井戸、太田南地区内の遺跡、センター展示室解説	佐藤
11	鬼無地区の文化財	鬼無コミュニティセンター	20人	9月24日	鬼無地区の古墳の概要と出土遺物について	高上
12	高松城周辺の歴史講座	屋島コミュニティセンター	15人	10月8日	高松城跡周辺の現地探訪	大嶋
13	トリムの祭典	高松市ハイキング協会	中止	10月11日	史跡石清尾山古墳群の説明	佐藤
14	亀阜小周辺の歴史と地形について	高松市立亀阜小学校4年団	87人	10月12日	亀阜小学校周辺の歴史と地形について	山元・高上・佐藤
15	丸亀市文化財保護協会現地研修（屋嶋城跡・高松城跡・石清尾山古墳群）	丸亀市文化財保護協会	30人	10月13日	屋嶋城跡・高松城跡・石清尾山古墳群での現地解説	香川
16	太田小学校周辺の歴史と地形	高松市立太田小学校4年団	120人	10月14日	太田小学校周辺の歴史と地形について	高上
17	高松城跡現地学習	徳島文理大学文化財学科	30人	10月22日	高松城跡の説明	梶原
18	屋嶋城跡城門等	高松市立屋島西小学校	75人	10月23日	屋島山上に所在する史跡等解説	山元
19	屋嶋城跡について	十河歴史研究会	6人	10月21日	屋嶋城跡についての現地解説	山元
20	屋島山上遺跡見学指導	高松市立川東小学校	58人	10月27日	屋嶋城跡、屋島寺、源平合戦	山元
21	屋島地区の地域探訪	香川県立高松北中学校	105人	10月28日	屋嶋城跡、屋島寺、源平合戦	山元
22	史跡石清尾山古墳群について	高松市国際交流協会	20人	11月1日	史跡石清尾山古墳群	高上
23	讃岐遍路道　一宮寺道　について	下笠居財産区	17人	11月12日	讃岐遍路道　一宮寺道　について	大嶋
24	檀紙地域における文化財等	檀紙地区地域おこし運営委員会史跡部会	20人	11月12日	檀紙地域の文化財	香川
25	高松観光ボランティアガイド協会研修	高松観光ボランティアガイド協会	70人	11月19日	桜御門の概要と進捗状況	大嶋
26	長崎鼻古墳・長崎鼻砲台・鵜羽神社境内遺跡解説	高松市立屋島西小学校	75人	11月25日	長崎鼻古墳・長崎鼻砲台・鵜羽神社解説	山元
27	石清尾山古墳群について	丸亀市生涯学習クラブ 丸亀古代史研究会	11人	11月25日	石清尾山古墳群 峰山地区、稲荷山地区案内	佐藤
28	屋島の遺跡について 屋嶋城・屋島寺・源平合戦屋島の戦い	三豊市文化財保護協会	中止	1月29日	屋嶋城・屋島寺・源平合戦屋島の戦いについての解説	山元
29	高松市内の身近な遺跡	身体障害者福祉センター コスモス園	20人	2月4日	高松城跡周辺の身近な遺跡（屋島方面等）	高上
30	香西（香西氏）の歴史と勝賀城	香西観光協会	40人	3月20日	香西（香西氏）の歴史と勝賀城	梶原
合計			912人			

第２節　連載講座『探求！たかまつ遺産』

市民向け講座として、年間４回程度、各種専門家を招聘した連載講座を実施しています。

なお、下記講座の文字化資料について、次年度刊行の次巻に掲載する計画ですので参加出来なかった方も本書を御覧ください。

探求！高松遺産第１回（令和２年 11 月 22 日）
「讃岐の中近世お墓事情」狭川真一（大阪大谷大学）
探求！高松遺産第２回（令和２年 12 月 12 日）
「石清尾山古墳群の至宝」高上拓（高松市文化財専門員）
「高松城下町の形成・拡大と構造」田中健二（香川大学名誉教授）
探求！高松遺産第３回（令和３年１月 16 日）
「屋島の石切丁場の調査」梶原慎司（高松市文化財専門員）
「分布調査からみた生駒山の石切丁場」坂本俊（公益財団法人元興寺文化財研究所）
探求！高松遺産第４回（令和３年２月 21 日）
「長崎の台場跡と長崎の鼻台場跡」田中学（長崎市文化財課）⇒開催中止

第１回

第２回

第３回

連載講座の様子

連載講座のチラシ

第２章　展示

第１節　埋蔵文化財センターの常設展示

（１）常設展示・・・屋外緑地帯

①亀井戸跡　導水施設の移築・復元：初代高松藩主松平頼重が 17 世紀中頃に造らせたといわれている亀井戸。亀井戸の先進性や高松城下町の発達を後世に伝えるために導水施設を移築・復元展示しています。

②讃岐の水の恩人　西嶋八兵衛：讃岐国高松で水資源開発に力を尽くした西嶋八兵衛について紹介。

③人と水のかかわり：高松は昔から雨が少なく、人々は溜池をつくったり川を改修したりと、水の確保に大変な苦労を重ねてきました。古代から現代に至るまでの讃岐の人々と水にまつわる 14 のお話を展示。

観覧料金：無料　休館日・開館閉館時刻：屋外展示につき終日観覧可

第２節　埋蔵文化財センターの企画展示

（２）企画展示・・・本館２階展示室ほか市内展示施設

センター展示室では小・中学生をはじめ広く一般の方に向けた埋蔵文化財に関わる展示会を実施し、会期終了後は市内の展示施設を巡回しています。また、年間３回程度、他の展示施設で企画展を実施しています。

センター観覧料金：無料　休館日・開館閉館時刻：土日祝日休み、午前９時～午後５時

亀井戸から埋蔵文化財センターを望む（緑地帯）

人と水のかかわり（緑地帯）

讃岐の水の恩人　西嶋八兵衛（緑地帯）

スポーツの起源　中る（展示室）

Takamatsu Remains File 刊行記念展
時時刻刻の高松（展示室）

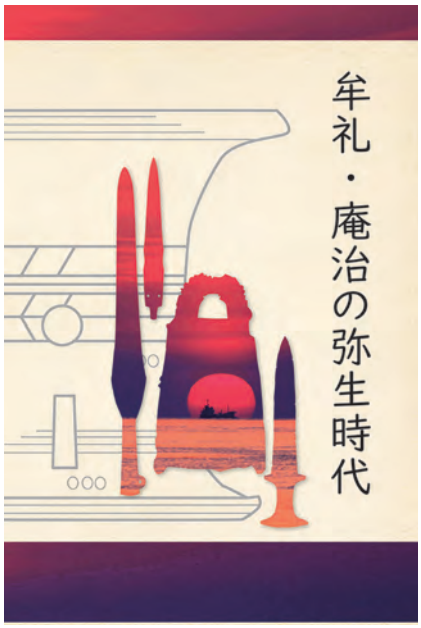
【広域連携】播磨灘を望む城　引田城に迫る（展示室、東かがわ市出前展示）

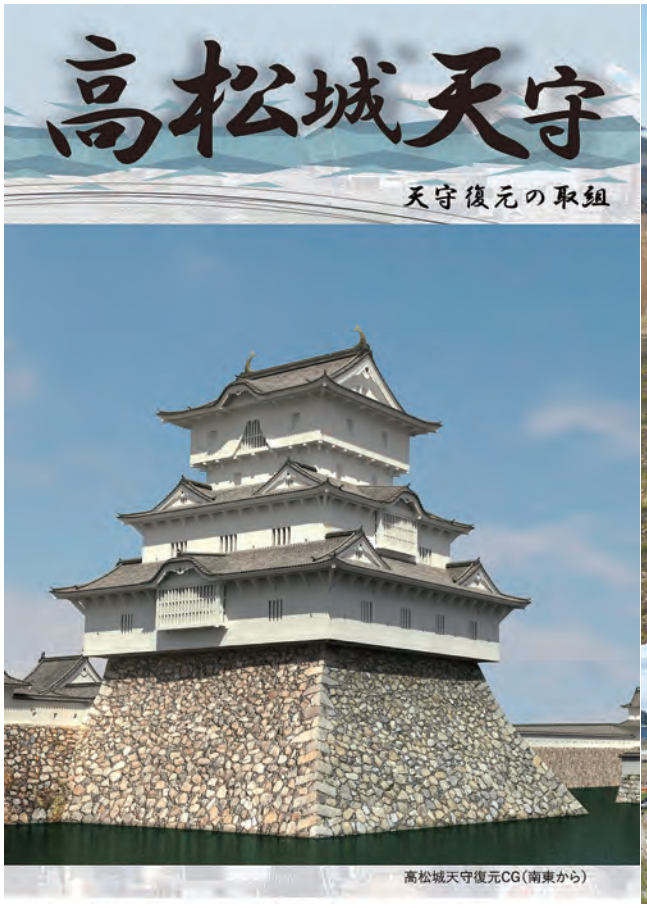
令和２年度展示活動一覧（令和３年２月現在）

	名　　称	場所	観覧者数	開催期間	主な内容
1	【前期展】高松の４大遺跡･令和元年度高松市遺跡発掘調査報告展	埋文センター	163人	令和2年 4月20日～7月17日	市内主要史跡の紹介と令和元年度実施の発掘調査の報告
2	【巡回展】令和元年度高松市遺跡発掘調査報告展＆屋島石切丁場調査報告展	讃岐国分寺跡資料館	386人	令和2年 4月20日～9月22日	令和元年度実施の発掘調査報告の巡回展＆屋島石切丁場の調査報告
3	【コーナー展】まいまいこ13号オリンピックイヤー特集「スポーツの起源　中る」	埋文センター	499人	令和2年 4月1日～10月30日	スポーツの起源にかかわる狩猟に関する出土遺物を展示･紹介
4	【後期展】Takamatsu Remains File刊行記念展「時時刻刻の高松」	埋文センター	開催中	令和2年8月3日～ 令和3年4月9日	Takamatsu Remains Fileで紹介した旧石器から江戸時代の13遺跡を展示･紹介
5	【広域連携】(東かがわ市出前展示)播磨灘を望む城　引田城に迫る	埋文センター	98人	令和2年 11月6日～12月18日	瀬戸･高松広域連携事業の一環で東かがわ市の国指定史跡引田城跡を展示･紹介
6	【企画展】桜御門の復元	玉藻公園陳列館	開催中	令和3年1月18日～令和4年3月31日	史跡高松城跡内桜御門の歴史的解説と復元工事の内容について紹介
7	【地域計画】牟礼･庵治の弥生時代	石の民俗資料館	開催中	令和3年 2月20日～3月21日	高松市牟礼町･庵治町周辺の弥生時代の遺跡について展示･紹介

第３章　パンフレット

高松市埋蔵文化財センターでは、市内の埋蔵文化財に関係する普及啓発用パンフレットを作成・配布しています。高松市役所、高松市埋蔵文化財センター、高松市歴史資料館等の各種施設で無料配布いたします。





令和２年度に印刷したパンフレットの一部（一部は既刊の復刊）

第４章　体験学習

第１節　体験学習講座

高松市埋蔵文化財センターでは、誰もが気軽に歴史に触れることができる昔のものづくり体験や、高松の歴史や史跡について学ぶ講座を多数実施しています。

通年実施の体験講座（①～④）には、おひとり様から予約可能（①②）であることから、親子はもちろん大人の余暇を楽しむ方等、様々な年齢層が来所します。

夏休み等長期休業期間の小・中学生や親子連れ向けに随時実施する講座（⑤～⑧）には、歴史好きのたくさんの子どもたちが市内外からやって来ます。

①鋳造体験　金属を溶かして鋳型に流し込みます。取り出し、削り、磨いたら完成。
　　種類：伝讃岐国出土袈裟襷文銅鐸ほか全６種　金額：500 ～ 1,300 円

②瓦づくり体験　粘土をこねて型抜き。トースターで焼き上げ、彩色して完成。
　　種類：讃岐国分寺跡出土鬼瓦型ほか全３種　金額：300 円

③勾玉づくり体験　滑石を好きな型に合わせて削り、磨いて、自分だけの勾玉を作成。彩色、紐結びをして首飾りやストラップにします。
　　種類：川島本町遺跡出土型ほか多数　金額：500 円

④消しゴム粘土作り体験：瓦型を使った消しゴム粘土作り。10 分茹でたら完成。
　　種類：讃岐国分寺跡出土鬼瓦型やたまもん型ほか全３種　金額：100 円

⑤土器焼き体験：粘土で土器を作り、窯を作って焼き、自分の土器で炊飯体験。
　　随時実施・全４回程度　金額：500 円

⑥高松の古墳教室：市内に所在する古墳について学び、出土遺物を観察。三角縁神獣鏡型のアメも作ります。
　　随時実施　金額：無料

⑦埋文センターのお仕事体験：埋蔵文化財センターの役割を知り、文化財専門員の仕事を体験します。
　　随時実施　金額：無料

⑧史跡探検・町歩き：屋嶋城跡の探検や高松城下町歩き等史跡を歩いて学びます。
　　随時実施　金額：無料

③勾玉づくり

③勾玉づくり

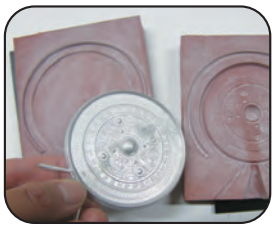
④消しゴム粘土づくり

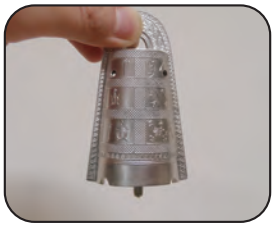
①鋳造体験　銅鏡

①鋳造体験　たまもん

①鋳造体験　銅鏃

①鋳造体験　和同開珎


①鋳造体験
三角縁神獣鏡


①鋳造体験
伝讃岐国出土
袈裟襷文銅鐸

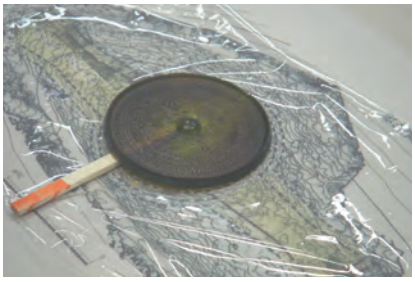
体験学習参加者等一覧（令和３年２月現在）

	展示室観覧者数	体験講座件数	体験講座参加者数	緑地帯利用者数	埋文デリバリー(学校)	埋文デリバリー(一般)
				(人)		(回)
平成30年度	1326	369	821	2634	14	39
令和元年度	1040	515	856	3549	13	38
令和2年度	602	30	55	2876	8	23

⑤土器焼き体験

⑤土器焼き体験

⑤土器焼き体験



⑥高松の古墳教室

⑥高松の古墳教室

⑦埋文センターのお仕事体験

⑦埋文センターのお仕事体験

⑧屋嶋城を探検しよう

⑧高松城下町歩き

第２節　体験キット販売・動画配信

高松市埋蔵文化財センターでは、通年実施している鋳造体験の中から、「三角縁神獣鏡」と「伝讃岐国出土袈裟襷文銅鐸」の２種を自宅で楽しめる「研磨体験キット」として販売しています。またYou Tubeで作り方動画を配信し、キット購入者がわかりやすい説明のもと体験ができる環境を整えています。

自宅で好きな時間に自分のペースで楽しめる体験キットは、県外の方々からもお申し込みをいただく等、在宅で気軽に楽しめる新しい体験講座として好評を得ています。

キット：全２種　三角縁神獣鏡（1,000 円）、伝讃岐国出土袈裟襷文銅鐸（1,300 円）

「研磨体験キット」

おうちで研磨体験！
伝讃岐国出土袈裟襷文銅鐸
高松市埋蔵文化財センター

おうちで研磨体験！
三角縁神獣鏡
高松市埋蔵文化財センター

You Tube「おうちで研磨体験」
ＱＲコード

「研磨体験キット」ちらし

第５章　活用事業の成果

第１節　伝鶴尾神社５号墳出土土器の再評価

品川　愛（高松市文化財課）

１はじめに

以下の内容は、令和３年３月に高松市埋蔵文化財センターで開催したコーナー展「弥生時代の石清尾山」の内容を基に作成したものである。

ここに紹介する資料は、石清尾山古墳群中の鶴尾神社５号墳付近を削平していた最中に採取されたものである。鶴尾神社５号墳は鶴尾神社４号墳の南西に存在した積石塚であり（第１図－84)、昭和48年ごろ採石により消滅した。墳丘の形状は長径約８ｍ、短径約６ｍ、高さ1.5ｍの円墳であり、墳丘中央部には主軸をＮ－68°－Ｅに向けた長さ２ｍ以上、幅１ｍ、深さ0.6ｍ以上の竪穴式石室が露呈していたという（高松市教育委員会1973)。

出土資料は個人の所有物となり、第24回埋蔵文化財研究会において古野徳久氏らが実測図を公表した（古野1988)。その後、平成30年に所有者から高松市に出土資料が寄贈されたため、出土資料について再評価を行うものである。また、これを踏まえて弥生時代における石清尾山山上の土地利用の変遷について言及したい。

２出土資料の概要

壺３点（１、２、３)、高杯２点（４、５）が採集されている（第２図)。

１は長頸壺である。口縁部径21.6㎝。口縁部は上下に拡張し、外面には凹線が残る。頸部外面には縦方向の刷毛目が見られ、内面にはナデ調整が施される。明褐色を呈し、胎土に角閃石を含む。２は壺の底部である。底径13.6㎝。外面には縦方向の刷毛目が見られ、内面にはナデ調整が施される。明赤褐色を呈し、角閃石を含む。３は壺の胴部～底部である。胴部高約40㎝。外面に縦方向の刷毛目が施された後、部分的にナデ消されている。内面は頸部と底部に指頭圧痕が残り、肩部には刷毛目、胴部下半にはケズリ調整が施されている。褐色を呈し、他と異なり胎土に角閃石を含まない。４は高杯の杯部である。口径26.3㎝。杯部端部には凹線が残り、杯部内外面には横方向のミガキ調整が確認される。脚部内面にはケズリ調整が見られる。明赤褐色を呈し、胎土には角閃石を含む。５は高杯の頸部であり、中央部に直径１㎝程度の穿孔痕が確認される。杯部内外面には横方向のミガキ調整が施されている。脚部外面に縦方向のミガキ調整が施され、内面にはケズリ調整が見られる。明赤褐色を呈し、胎土には角閃石を含む。

３出土資料の評価

出土資料の所属時期については、長頸壺の口縁部や高杯杯部の端部に凹線が残ること、壺の胴部最大径が肩部にあること、平底を呈することなどの特徴から、讃岐Ｖ－１～Ｖ－２期（真鍋2000）に収まると考えられる。

上記の出土資料の中でも特筆されるのは壺の胴部～底部（３）であり、（３）はその法量から、土器棺として利用されていた可能性が高いと考えられる。弥生時代後期から古墳時代前期には大型の壺、甕が土器棺として利用される事例が見られるようになる。角南総一郎氏による土器棺の集成研究を参考にすると、土器棺の胴部高は40～70㎝程度の大型品がほとんどであり（角南2001)、（３）は土器棺の典型的なサイズであるといえる。これを踏まえると、出土資料は石清尾山山上の墓地としての利用の開始時期が弥生時代後期前半期に遡る可能性が高いことを示すものであると評価することができる[(1)]。

４弥生時代における石清尾山山上の土地利用の変遷について

以上の検討を基に、弥生時代における石清尾山山上の土地利用の変遷について整理しておきたい。

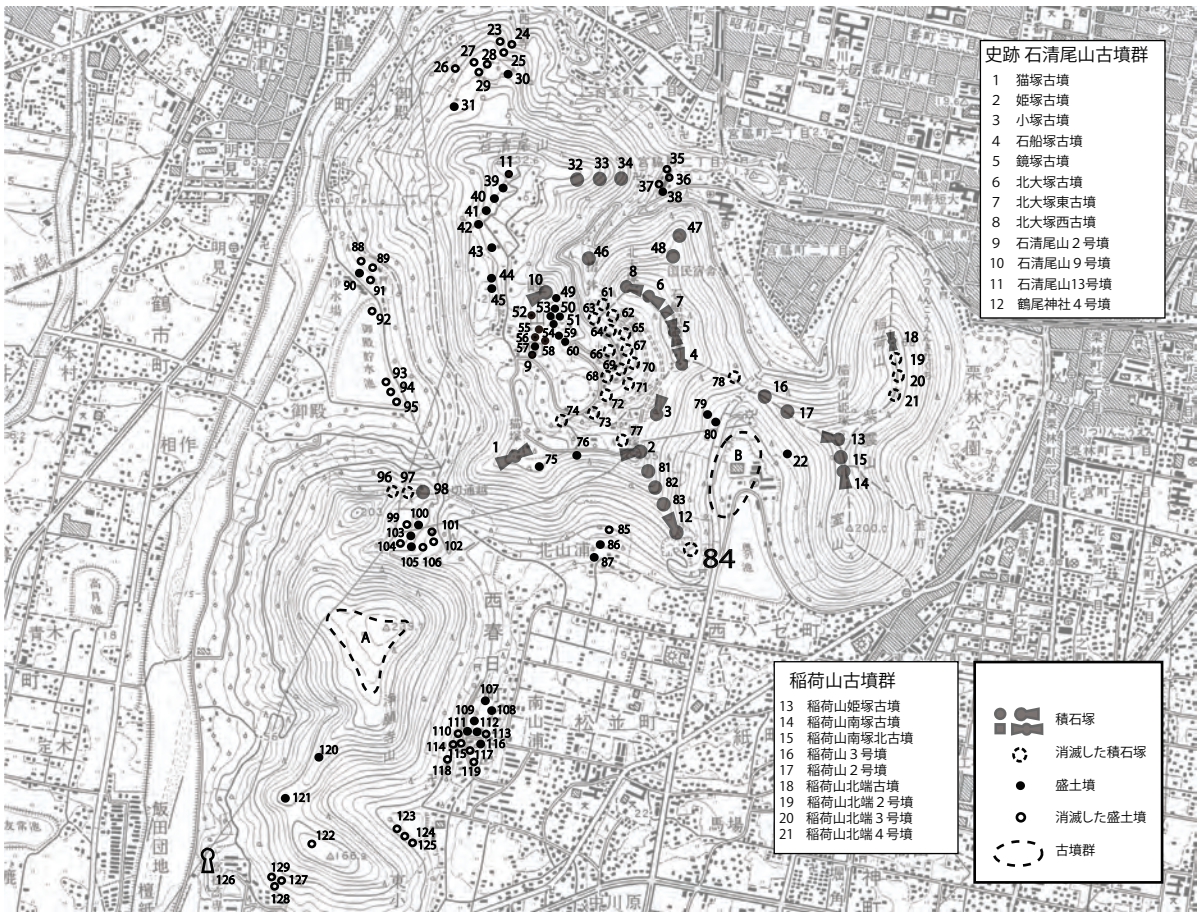
石清尾山山上に弥生時代の遺跡が確認されるのは、弥生時代中期中葉～中期後葉からである。石清尾山山塊の北斜面に位置する摺鉢谷遺跡では、凹線文土器や磨製石斧などが表採されており、当該期には集落域として利用されていたと考えられている（真鍋1995)。

その後、弥生時代後期以降には鶴尾神社５号墳の他に、稲荷山の西斜面に位置する稲荷山３号墳（第１図

－16）で弥生土器が採取されたといわれている（梅原 1933）。採取された土器の器種は壺と高杯であり、壺の底部が丸底を呈することから、弥生時代終末期ごろのものと考えられる（第３図）。土器の出土状況の詳細は不明であるが、これらが稲荷山３号墳に伴うものであるとすれば、稲荷山３号墳の時期は弥生時代終末期ごろに比定される。

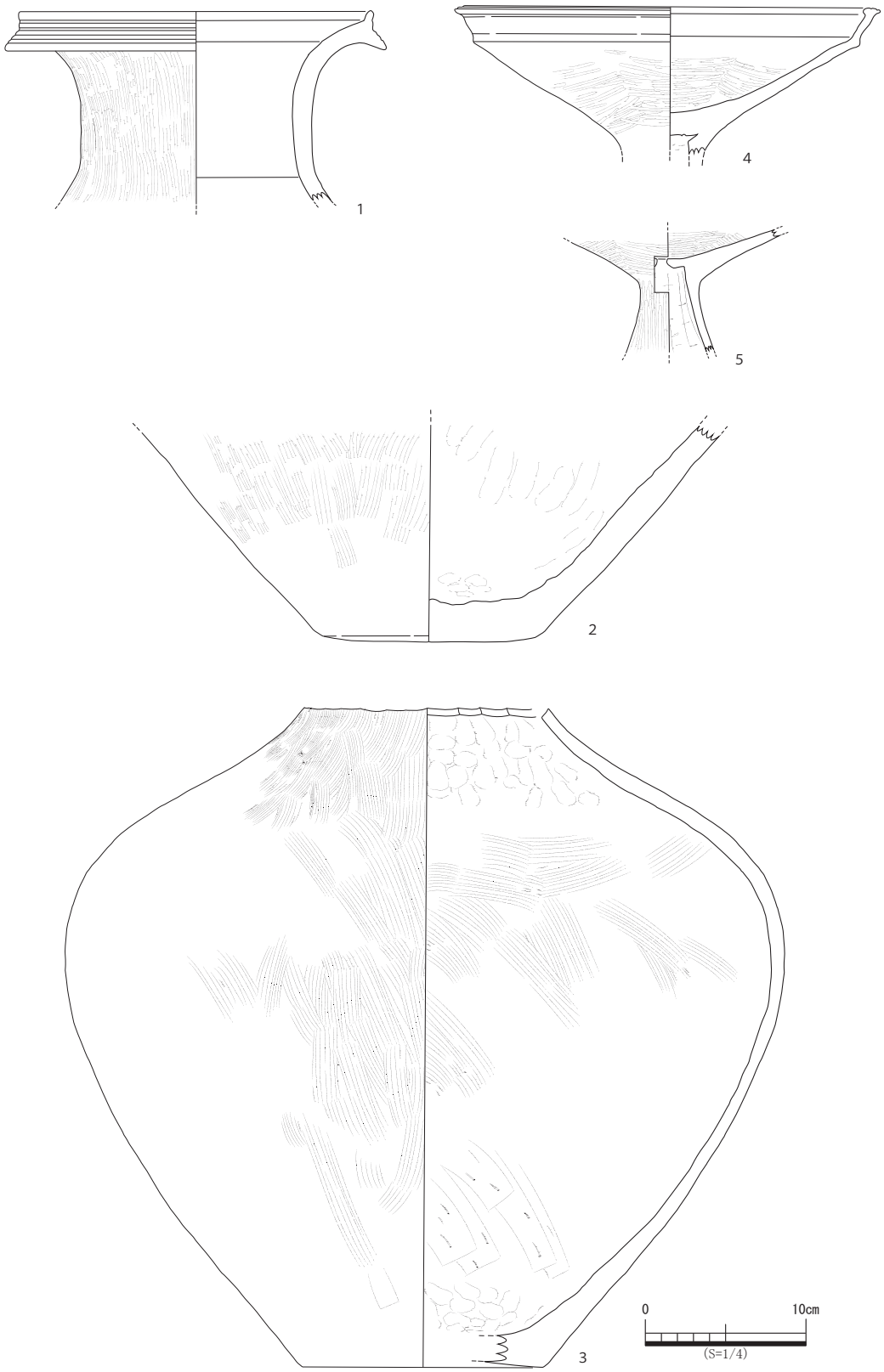
また、鶴尾神社５号墳と稲荷山３号墳を立地的な観点からみると、両者は丘陵斜面に立地する点で共通しており、山頂部をとりまくように古墳が分布する古墳時代前期の様相とは異なっている。あらためて古墳分布図（第１図）を見ると、北大塚北方２号墳（第１図－47）石清尾山 16 号墳（第１図－34）など、両者と同様の立地条件にある積石塚が複数あることが確認される。

立地条件の違いが時期差を表しているとすれば、これらの積石塚も弥生時代にさかのぼる可能性があり、弥生時代中期に集落域が営まれた後には、古墳時代前期に至るまで墓地として継続的に利用された可能性がある。

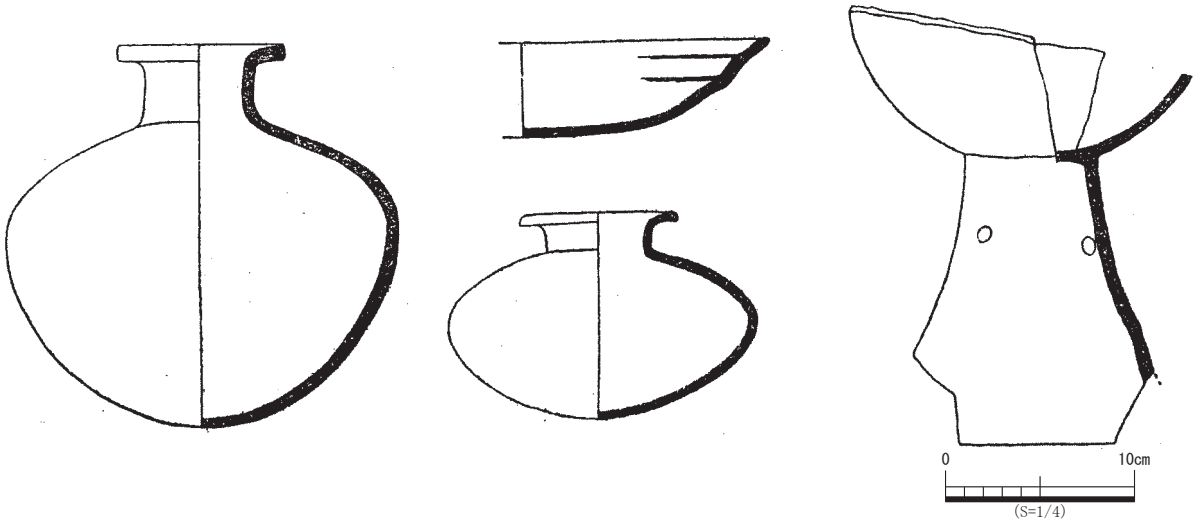


1 猫塚古墳　2 姫塚古墳　3 小塚古墳　4 石船塚古墳　5 鏡塚古墳　6 北大塚古墳　7 北大塚東古墳　8 北大塚西古墳
9 石清尾山２号墳　10 石清尾山９号墳　11 石清尾山13号墳　12 鶴尾神社４号墳　13 稲荷山姫塚古墳　14 稲荷山南塚古墳
15 稲荷山南塚北古墳　16 稲荷山３号墳　17 稲荷山２号墳　18 稲荷山北端古墳　19 稲荷山北端２号墳　20 稲荷山北端３号墳
21 稲荷山北端４号墳　22 稲荷山5号墳　23 西方寺4号墳　24 西方寺6号墳　25 西方寺5号墳　26 木里神社2号墳　27 木里神社3号墳
28 木里神社5号墳　29 木里神社4号墳　30 木里神社6号墳　31 木里神社1号墳　32 石清尾山14号墳　33 石清尾山15号墳
34 石清尾山16号墳　35 峰山墓地内4号墳　36 峰山墓地内3号墳　37 峰山墓地内2号墳　38 峰山墓地内1号墳　39 石清尾山17号墳
40 石清尾山18号墳　41 石清尾山12号墳　42 石清尾山11号墳　43 石清尾山19号墳　44 石清尾山20号墳　45 石清尾山10号墳
46 石清尾山23号墳　47 北大塚北方2号墳　48 北大塚北方1号墳　49 摺鉢谷西斜面5号墳　50 石清尾山7号墳　51 石清尾山8号墳
52 摺鉢谷西斜面4号墳　53 石清尾山21号墳　54 石清尾山6号墳　55 摺鉢谷西斜面3号墳　56 摺鉢谷西斜面1号墳　57 石清尾山3号墳
58 摺鉢谷西斜面2号墳　59 石清尾山5号墳　60 石清尾山4号墳　61 摺鉢谷東斜面1号墳　62 摺鉢谷東斜面2号墳
63 摺鉢谷東斜面3号墳　64 摺鉢谷東斜面5号墳　65 摺鉢谷東斜面4号墳　66 摺鉢谷東斜面7号墳　67 摺鉢谷東斜面6号墳
68 摺鉢谷東斜面10号墳　69 摺鉢谷東斜面9号墳　70 摺鉢谷東斜面8号墳　71 摺鉢谷東斜面11号墳　72 摺鉢谷東斜面12号墳
73 摺鉢谷東斜面13号墳　74 摺鉢谷東斜面15号墳　75 石清尾山22号墳　76 石清尾山1号墳　77 摺鉢谷東斜面14号墳
78 石船塚東方古墳　79 奥ノ池4号墳　80 奥ノ池5号墳　81 鶴尾神社1号墳　82 鶴尾神社2号墳　83 鶴尾神社3号墳
84 鶴尾神社5号墳　85 北山浦３号墳　86 北山浦1号墳　87 北山浦2号墳　88 御殿神社2号墳　89 御殿神社3号墳　90 御殿神社1号墳
91 御殿神社4号墳　92 御殿貯水池4号墳　93 御殿貯水池1号墳　94 御殿貯水池2号墳　95 御殿貯水池3号墳　96 野山10号墳
97 野山11号墳　98 野山3号墳　99 野山9号墳　100 野山1号墳　101 野山5号墳　102 野山6号墳　103 野山2号墳　104 野山8号墳
105 野山4号墳　106 野山7号墳　107 南山浦12号墳　108 南山浦13号墳　109 南山浦11号墳　110 南山浦6号墳　111 南山浦9号墳
112 南山浦10号墳　113 南山浦8号墳　114 南山浦4号墳　115 南山浦5号墳　116 南山浦7号墳　117 南山浦3号墳　118 南山浦2号墳
119 南山浦1号墳　120 浄願寺山56号墳　121 浄願寺山57号墳　122 小山山頂古墳　123 片山池1号墳　124 片山池2号墳
125 片山池3号墳　126 がめ塚古墳　127 がめ塚2号墳　128 がめ塚3号墳　129 がめ塚4号墳 A 浄願寺山古墳群　B 奥の池古墳群

第１図　古墳分布図



第２図　伝鶴尾神社５号墳出土土器



第３図　稲荷山３号墳表採資料（梅原 1933 より転載）

【註】

(1) ただし、現状ではこれらが本当に鶴尾神社５号墳に伴うものであるかどうかは明らかではなく、出土資料が積石塚築造の開始時期を示しうるものではないことは注意しておかなければならない。

【参考文献】

梅原末治 1933『讃岐高松石清尾山石塚の研究』京都帝国大学

角南総一郎 2001「四国地方の土器棺葬－資料集成と研究史を中心とした基礎的研究―」『香川考古』第８号香川考古刊行会

高松市教育委員会 1973『石清尾山塊古墳群調査報告』

高松市教育委員会 2018『石清尾山古墳群（稲荷山地区）調査報告書』高松市埋蔵文化財調査報告第 190 集

古野徳久 1988「４．鶴尾神社４号墳」『定型化する古墳以前の墓制』第 24 回埋蔵文化財研究集会発表要旨第Ⅲ分冊　埋蔵文化財研究集会

真鍋昌宏 1995「29. 藤本武四資料」『歴史博物館整備に伴う収蔵資料目録』香川県教育委員会

真鍋昌宏 2000「２．讃岐地域」『弥生土器の様式と編年－四国編―』木耳社

第２節　地籍図からみた屋島における明治初期の凝灰岩の採石状況

有岡　京香・梶原　慎司（高松市文化財課）

１はじめに

以下の内容は、令和３年１月 16 日第３回連載講座において発表した内容を基に作成したものである。

高松市歴史資料館が所蔵する、『名東縣下讃岐國第拾六大區五小區山田郡屋嶋村地引繪圖』全十七冊（内、第六冊目欠落）・『名東縣下讃岐國第拾六大區五小區山田郡西潟元村地引繪圖』全十七冊（内、第十四・十五・十七冊目欠落）・『名東縣管下讃岐國第拾六大區五小區山田郡東潟元村地引繪圖』全五冊は、明治初期の屋島地域の地籍図である。以上の史料は明治初期の屋島地域の状況を語る上で定点となる重要な史料である。そのため、史跡天然記念物屋島保存・整備事業においてデジタルカメラで撮影し、画像データを作成する業務を実施した。本稿では以上の史料を用いて、屋島における明治初期の凝灰岩の採石状況について考察する。

２史料の時期比定

地籍図の作成年代は史料中に示されていないため、正確な年代は不明である。明治初期の地籍図作成変遷を辿ると、明治５年壬申地券発行の達を受け、壬申地券地引絵図が作成されたのが始まりとされる。その後、中央政府の政策に応じ明治 21 年まで４度の地籍図作成が行われたが、全府県で４回作成されたとは限らず、個々によって作成回数は異なる（佐藤 1986）。

香川県の明治初期の県制と区画編成について『高松百年史』を参考にまとめたものが第１表である。明治６年２月 20 日に名東県が設置され、第二次香川県が設置される明治８年９月５日まで続いている。また、明治７年２月に大区小区区画編成がなされ、山田郡第 16 大区下に新田村・古高松村・東潟元村・西潟元村・庵治陸村・庵治浜村・屋島（屋嶋）村からなる第５小区が所属していた。これにより本史料は、名東県下の大区小区区画編成がなされていた明治７年２月から、明治８年９月５日の間に作成されたものであることが明らかになった。

また中央政府の政策として、明治７年 12 月 28 日に地籍編纂の実施とそのための官員派遣通達が出された。官有・公有の土地も含め全ての土地に対して地籍の明示を義務づけ、河川・池沼・河川敷・堤防なども精査の対象とされている。これを受け各地で地籍図編纂が進められたが、政府から出された作成規範はあるものの、府県ごとに心得書や指導書が出され、府県の事情に応じた地籍編纂を行っている。本史料も河川や道路、官林などの記載が明確にされており、この通達を受けて作成されたものと考えられる。地籍図は基本的に明治６年の地租改正法発布を受け、現状の実測を元に新たに作成することを原則とした。しかし前年の壬申地券発行の達との期間が狭まっていたことや、地租改正事業の進捗状況が異なっていたこともあり、壬申地券地引絵図や検見耕地絵図を参考に地籍図作成を行った府県も少なくなかった。香川県での地租改正事業は明治９年の愛媛県時代に着手されており（佐藤 1986）、本史料は表題から明治８年代に作成された地籍図ではあるものの、それ以前の壬申地券地引絵図や検見耕地絵図の内容を踏襲している可能性が大いに考えられる。

３史料に記載された「石穴」

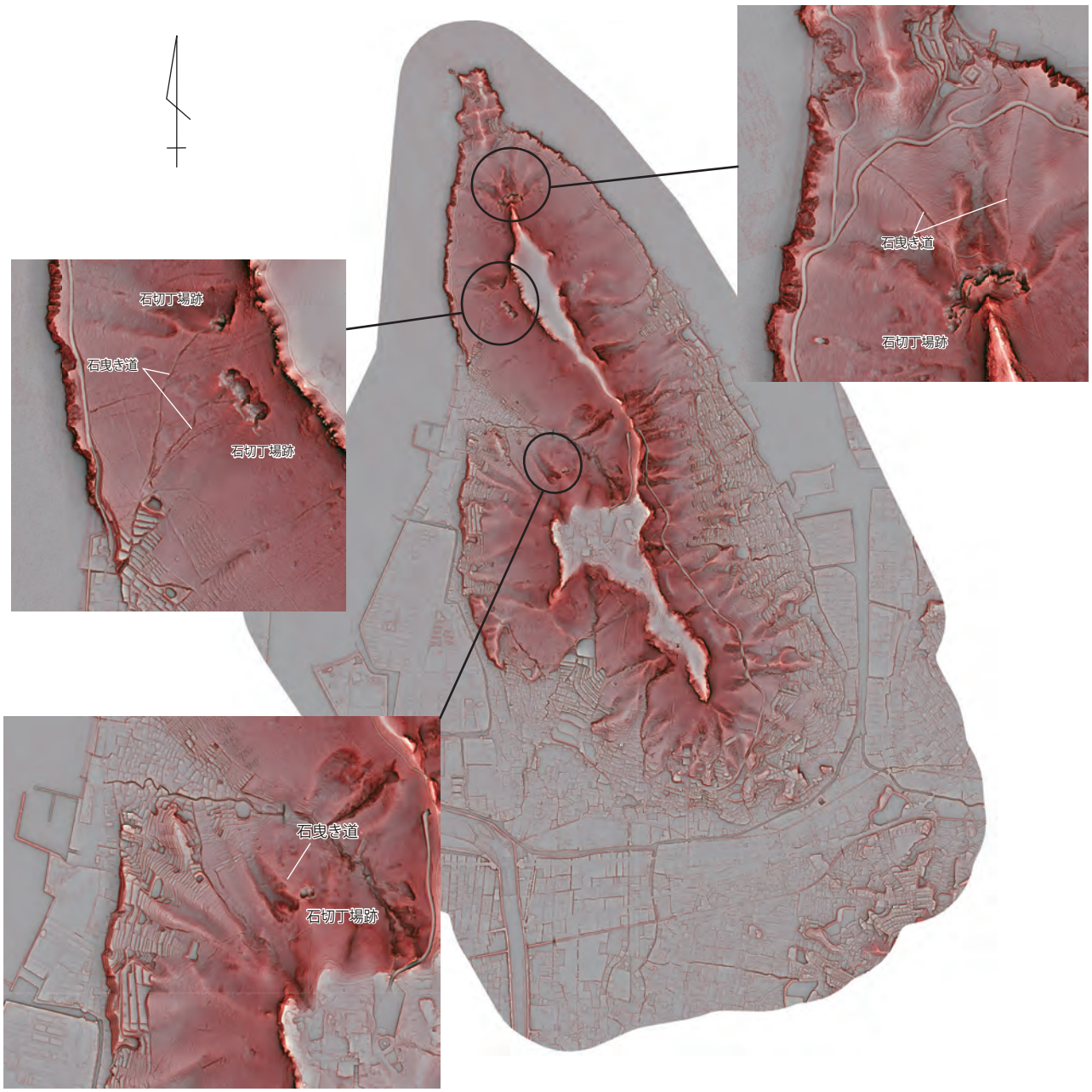
第３図は画像データを貼り合わせたものである。『名東縣下讃岐國第拾六大區五小區山田郡屋嶋村地引繪圖』の範囲は、長崎鼻港から東側全域で現在の屋島東町、一部屋島中町にあたる。沿岸部は住宅地が広がり、北嶺地区と中央部は官林指定がなされている。『名東縣下讃岐國第拾六大區五小區山田郡西潟元村地引繪圖』の範囲は、西側全域で現在の屋島西町、一部春日町にあたる。浦生地区から南沿岸部にかけて住宅地と塩田が広がり、北嶺地区と中央部には官林指定がなされている。『名東縣管下讃岐國第拾六大區五小區山田郡東潟元村地引繪圖』の範囲は、屋島南側中央で現在の屋島中町にあたる。北側は屋島寺領、中央は屋島神社領が表され、南側は全域に住宅地が広がる。現在の屋島と比較すると、住宅地域や国有林地区はほぼ一致している。

本史料内に「石穴」の記述を２ヶ所で確認した。１ヶ所目は屋島北嶺北傾斜面、遊鶴亭から北に下った場所で「石穴」が４つ確認でき、うち１つは東側の少し離れた場所に記されていた。石穴からは北側に向かう

第３図　明治初期の地籍図

第１表　明治初期の区画編成（佐藤 1986、高松百年史編集室編 1988・1990）

開始年月日	西暦	政府の動き	県制	区画編成	概要	期間
明治4年11月15日	1871		高松県廃止 第一次香川県設置			明治6年2月19日迄
明治5年2月	1872			全国区画編成法発布 （村を区ごとに整理）	香川県では明治5年5月に通達 県内を八十八区に区分 第十八区…新田・古高松・潟元東・潟元西	明治7年2月12日迄
明治5年7月4日		壬申地券発行の達			地券全国一般発行を布達	
明治6年2月20日	1873		名東県設置		阿波・淡路に併合	明治8年9月4日迄
明治6年7月28日		地租改正法発布				
明治7年2月13日	1874			区画改正 大区小区制設置	山田郡第十六大区（一～五小区を管轄） 五小区…新田村・古高松村・東潟元村・西潟元村・ 庵治陸村・庵治浜村・屋島村	明治7年4月23日改正 明治10年2月改正
明治7年12月28日		地籍編成通達			地籍編纂の実施と官員派遣、地所名称区別改正	
明治8年2月15日	1875	地籍編纂官員派遣を延期				
明治8年3月24日		地租改正事務局設置				
明治8年8月30日		太政官達			改租を9月末までに竣功すべき旨	
明治8年9月5日			第二次香川県設置		名東県から分離	明治9年8月20日迄
明治9年8月21日	1876		愛媛県に併合			
明治10年2月	1877			大区小区改正	山田郡・三木郡が第二大区 七小区…牟礼村・原村・大町村・新田村・古高松村・ 東潟元村・西潟元村・庵治村・屋島村	



第４図　赤色立体図からみた屋島の凝灰岩石切丁場跡

写真１　大谷石「垣根平掘り」の石切丁場跡

道、南西に向かう道がそれぞれ続いている。この石穴は現在の屋島洞窟、上屋島洞窟と場所が一致し、洞窟内の調査から石切丁場として利用されていたことが分かっている。2ヶ所目は屋島南嶺北西傾斜面にあたり、石穴の記述は1つで、それに続く道も1本のみであった。この場所においても踏査を行ったところ、石切丁場である洞窟を確認した。

本史料から明治8年には屋島で凝灰岩の採石業が行われていたことや、明治8年前後に操業していた石切丁場の場所が明らかになった。

４明治初期における採石方法

現在、屋島でみられる凝灰岩の石切丁場跡から想定される採石方法は、凝灰岩を上から下に垂直に掘り下げる露天掘りと凝灰岩の層を真横に水平に掘り進む坑内掘り（垣根掘り）である。露天掘り⇒坑内掘りという変化は現地の切り合い関係において明らかであり、他地域の石切丁場の事例も同様である。では、露天掘りから坑内掘りへと移行した当初から、現在屋島北嶺地区でみられる最長100 m以上に及ぶ洞窟がつくられたのだろうか。以上の問いに対して明確な答えを提供する史料はない。そのため、採石方法が類似する石材の採石方法の変化から推測したい。

今回取り扱うのは、栃木県宇都宮市に所在する大谷石である。大谷石も屋島同様、露天掘りから坑内掘りへと移行する。明治末期から大正初期に坑内掘りの技術が伊豆から伝わったことが移行の契機である。しかしながら、大谷石の丁場跡には露天掘り、坑内掘り以外にも「垣根平掘り」という掘り方が存在する。垣根平掘りとは、坑内掘りのように凝灰岩の層を真横に掘り進むが、10 m程度しか掘り進まない掘り方である。深く掘り進まないため崩落防止の柱を残すこともない。垣根平掘りの石切丁場跡は、大谷石の石切丁場跡で一箇所のみ残されていた（写真1）。採石方法の技術としては、垣根平掘りの方が坑内掘りよりも拙く、古い段階の採石方法であると考えられる。現地の切り合い関係においては露天掘りの後に垣根平掘りを施工していることから、露天掘りと少なくとも同時期、又は露天掘りよりも新しいことがわかる。以上をまとめると、大谷石の採石方法は露天掘り⇒露天掘り・垣根平掘り⇒坑内掘りと移行したことが分かる。

大谷石でみられた垣根平掘りのような採石方法による痕跡は屋島でもみられる。特に、屋島南嶺北西傾斜面の石切丁場跡は露天掘り及び垣根平掘りによる丁場が残存しており、坑内掘りによる丁場はみられない。崩落した丁場のなかに坑内掘りによる丁場がある可能性はあるが、屋島南嶺北西傾斜面の石切丁場跡の規模が北嶺地区に比較して小さいことや、聞き取り調査から昭和初期には利用されていなかったことが明らかになっており、屋島南嶺北西傾斜面の石切丁場跡は明治初期の様相が残っている可能性がある。そうであるならば、明治初期の地籍図に描かれた「石穴」は、坑内掘りの石切丁場ではなく垣根平掘りの石切丁場であった可能性がある。

５おわりに

本稿は現在明らかになっている資料から採石方法の変化について論じた、検討段階のものである。論理的に不十分な部分も多々あり、検証を継続していく予定である。今後は他地域の採石方法の変化や女木島・男木島も含めた悉皆調査を行い屋島における凝灰岩採石の具体的様相を明らかにしたい。本稿は、史料についてを有岡が、採石方法についてを梶原が担当した。

【参考文献】

宇都宮美術館編 2017『石の街うつのみや　大谷石をめぐる近代建築と地域文化』宇都宮美術館
佐藤甚次郎 1986『明治期作成の地籍図』古今書院
高松市史編修室編 1964『新修高松市史Ⅰ』高松市役所
高松百年史編集室編 1988『高松百年史　上巻』高松市
高松百年史編集室編 1990『高松百年史　資料編』高松市
松田朝由 2019「香川県豊島石石造文化の歴史と地域社会」『産業発展と石切場』戎光祥出版
屋島風土記編纂委員会編 2010『屋島風土記』屋島文化協会
安森亮雄 2019「栃木県宇都宮市の大谷石」『産業発展と石切場』戎光祥出版

報 告 書 抄 録

ふりがな	ししゅう たかまつ だいいちごう
書　　名	史集 高松 第1号
副 書 名	高松市埋蔵文化財センター活用事業報告書
巻　　次	第1集
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第217集
編著者名	有岡 京香・織田 比呂子・梶原 慎司・品川 愛・高上 拓
編集機関	高松市教育委員会
所 在 地	〒760－8571 香川県高松市番町一丁目 8 番 15 号　　TEL087－839－2660
発行年月日	西暦 2021 年3月 31 日

高松市埋蔵文化財調査報告第217集
高松市埋蔵文化財センター活用事業紀要第1集

史集 高松 第1号

2021 年3月 31 日

編　集　　高松市教育委員会
　　高松市番町一丁目8番 15 号
発　行　　高松市・高松市教育委員会
印　刷　　有限会社中央ファイリング